坂本城と
明智光秀

Ⅱ．明智光秀の再評価

平成 22 年 5 月作成

●明智光秀肖像（本徳寺蔵）

坂本城を考える会

明智光秀とは（略年譜）

出生年不明。出自は土岐氏の支流とされる。40 歳で初めて記録に現れる。足利義昭の臣下から、織田信長の家臣となり、本能寺の変で信長を殺すも、山崎の戦いで羽柴（豊臣）秀吉に敗れ、小栗栖で土民に殺される。

享録２年（1528 年）	出生年か不明、土岐氏の支流とされ、父は明智光隆とも光綱とも
永禄 10 年（1567 年）	この年初めて記録に現れ、越前の朝倉義景に仕え、足利義昭の臣下となる
永禄 11 年（1568 年）	信長と義昭との初会見設定
	義昭を奉じて、信長に従って上洛
元亀元年（1570 年）	信長と義昭とが次第に不和となり、両者の間に立ち苦慮
	信長の朝倉征討に従軍
	森可成が宇佐山に築城するも、浅井・朝倉連合軍に森可成が敗死
	光秀が宇佐山城主となる
	浅井・朝倉連合軍が壷笠山に立てこもる、光秀攻撃
元亀２年（1571 年）	雄琴の土豪和田秀純に書状を送り、味方についたことを感謝
	信長の叡山焼き討ちに従う
	滋賀郡の支配を命じられ、坂本城築城
元亀３年（1572 年）	堅田の水軍を率いて海津・塩津の浅井長政軍を攻撃
	木戸（志賀町）・田中（安曇川町）の浅井長政軍を攻撃
元亀４年（1573 年）	石山・今堅田の山岡景友・礒谷新右衛門軍を攻撃
	坂本の舟大工三郎左衛門尉に地子・諸役公事免除の特赦
	戦死者供養のため坂本西教寺に供養米を寄進
	信長が坂本城へ入り、信長とともに宇治槙島城の足利義昭を破る
天正元年（1573 年）	信長とともに浅井・朝倉連合軍を姉川で破る
天正２年（1574 年）	光秀の息子は筒井順慶の養子に、娘は細川忠興と織田信澄に縁組
天正３年（1575 年）	丹波の平定へ
	惟任日向守の官位
天正４年（1576 年）	信長の安土城着工
	光秀の妻が坂本城で死去、西教寺に埋葬
天正８年（1580 年）	丹波が光秀領となる
天正９年（1581 年）	細川藤孝・兼見卿らと坂本城で連歌会
天正 10 年（1582 年）	信長から徳川家康の饗応役を命じられる
	中国攻めのため坂本城から丹波亀山城へ向かう
	本能寺に織田信長を攻め、二条城に織田信忠を攻め、殺す
	山崎の戦いで秀吉に敗れ、小栗栖で死去
	明智秀満が坂本城へ、堀秀政軍に囲まれ、坂本城焼亡、一族滅亡

明智光秀の新しい人物像

明智光秀は、主君である織田信長に謀反し、これを殺したことにより「主殺しの謀反人」とされ、またそれにより得た天下が短時日で羽柴秀吉により覆されたことから「三日天下」とされ、歴史上の人物の中では高い評価はほとんどなく、むしろ悪人の代表格ともされている。しかし光秀は、その領地である福知山や坂本では善政を敷いたとされ、その人気は高いものがある。

明智光秀の善政に関する資料

○　明智光秀の年貢・諸役免除

●元亀４年４月　堅田の船大工に年貢・諸役・雑役の免除。1)

●元亀４年４月　京都の地子銭・諸役の免除（織田信長の命であるが、逸話では、「京中の地子がないのは明智日向守の恩」としている）。2)、3)

○　明智光秀の寺社への寄進

● 元亀４年５月　西教寺に、１７人の兵士供養のための供養米寄進。光秀の寄進状が残されている。

● 西教寺に対し、坂本城の陣屋を本坊として、城の門を総門として、城の陣鐘を梵鐘として寄進（光秀の死後か）。

● 盛安寺を再興し、陣太鼓を寄進。寺内に光秀供養塔が建てられている（光秀の死後か）。

● 来迎寺に対し、城の門を寄進（光秀の死後か）。

● 威光寺の寺領・境内を安堵。4)

● 天寧寺に諸役免除の判物を発給。5)

● 白毫寺に人足役等を免除する判物を発給。6)

○　明智光秀の徳政（令）

●天正３年１２月　明智光秀の徳政令が出されている（名古屋市　森守氏所蔵の屏風より発見）。

■質物借銭借米并金銀之事　―――　質物、借銭、借米ならびに金銀について

一、一年季田畠之事　―――　一年季田畠についての貸し借り、

■講并頼之之事　―――　講や頼母子の掛け金

一、くち并諸勝負懸銭之事 ―　ばくちや諸勝負の懸け金

一、年貢古未進之事　―――　未払いの年貢米

これらの貸借関係は破棄し、違反した者は厳罰に処す。礼物は一切不可、取り次いだ者も同じ。礼物のうわさがあれば、双方とも成敗する。

●福知山市　威光寺の資料によれば、光秀は福知山領主として、①足利家代々の判物を持ち、天皇・信長への忠義を尽くすものは幾分かの領地を与え、②検地を行

い、千石を一村として一人の名主、万石に一人の代官を置き、③年貢以外の雑税を免除した。このことで、前代より光秀平定後の方が侍・農民の区別が明確で安定したとされる。また福知山千軒の地子銭を免除したとされる。4)、7)

- 福知山の御霊神社に光秀を祀ったのも、由良川の治水工事など、光秀の城下町保護政策に対する人々の感謝によるものとの伝承がある。8)
- 大津市滋賀里に、明智光秀を偲んでの「一文字焼き・火灯し山」の行事があったとされる。すべて言い伝えであるが、この行事は、お盆の時期に、大津市滋賀里の山腹に火を灯す、江戸時代から明治時代の初期まで約250年続いた行事で、滋賀里の山は「火灯し山」と呼ばれ、対岸の草津からの眺めは壮観であったとされる。これは地元の「元祖講」のお盆の送り火の行事として行われており、「元祖講」は、地元の旧家である小嶋家・塚本家・徳永家・村上家・白子家および大通寺・称念寺・正興寺・念仏寺で行われていたという。

  この「一文字焼き」の行事は、明智光秀の徳政に対する感謝として始められたとされるが、この徳政が天正3年の徳政令なのか、また明智光秀は壷笠山に浅井・朝倉連合軍を攻めた際に、壷笠山の水の手を地元の者が教えてくれた礼として比叡山延暦寺の寺域であった滋賀里の山の内、その東斜面を地元に下げ渡したとの伝承があり、これに対する感謝なのか、またその両方なのかは不明である。しかしいずれにせよ、「一文字焼き」の行事が明智光秀の善政に対する感謝として行われたことは間違いない。
- 福井市東大味町では、光秀が朝倉氏に仕官を求めて、かってこの地に3年ほど居館を構えた際に、人々の信望を得ていたが、後年に信長の朝倉攻めと越前一向一揆攻めの際に、この地区を殺戮と戦火から守ったことへの礼として、地元の人々が「明智神社奉賛会」を発足させ光秀を神として祀ることとなった。9)

明智光秀が高い評価をされている資料

○ 明智光秀が高い能力を持った人物であるという資料

- 吉田兼見の小姓の逐電事件が起こり10)、この解決について、「光秀の在地支配がごくわずかの間に逐電したものを探索しえるほどまで完備していた」という見方がある。11)
- 光秀は文官的色彩の強い人物とされる。しかし、光秀は戦いに対しても優秀な将であり、「惟任･･･永々丹波に在国候て粉骨の度々の高名、名誉比類なき」とされる。1) また、織田信長と浅井・朝倉連合軍との戦いで信長が挟み撃ちにあい京都へ逃れる際の、元亀元年の金崎城での戦いにおける殿軍として木下藤吉郎が喧伝されているが、古文書には、「金崎城に木藤（木下藤吉郎）・明十（明智光秀）・池筑（池田勝正）その他残し置かる」12) とあり、明智光秀も殿を務めている。
- 光秀は信長にうとまれたとされる。しかし、織田信長の佐久間信盛・信栄親子へ

の折檻状の中で、「丹波国日向守の働き、天下の面目をほどこし候、次に羽柴藤吉郎」とあり、信長の働き頭のトップに光秀があげられている。13)

- 光秀は鉄砲の名手であったとされ、また信長から馬揃えの惣奉行に任命されている。
- 光秀は謹厳実直をもって信長を支えた重要人物の一人と評価でき、とりわけ信長が義昭を奉じて上洛した永禄十一年以降、およそ六年間、信長と義昭の間にあって、京都の政治や民政に才能を発揮したことは、信長家臣の中にあって他の追随を許さないものがあったとされる。13)
- 光秀は、「築城のことに造詣が深く、優れた建築手腕の持ち主」と、築城術にすぐれた人物であったとされ 14)、坂本城から亀山城、福知山城、また黒井城・岩尾城・宇津城・金山城などの普請を行っている。3)、15)

○ 明智光秀が温和な性格であったという資料

- 光秀は、合戦で負傷した家臣を見舞うなど、やさしい人物であったとされる。
- 光秀は神経質な人物と評価されている。しかし、秀吉との比較の中で、「光秀は信長の外様で、性格はいたって謹厚、その話ぶりは慇懃」とされている。1) また斎藤利三を高禄で引き抜くなど、積極的な人材の登用を図っている。
- 光秀は短気な性格とされる。しかし、亀山城や他の丹波諸城の攻略で、「光秀はあくまで戦わず降伏させるという方針を大前提にしていた」とされる。16)
- 明智光秀の正室である熙子（ヒロコ）は、右頬に疱瘡による傷跡が残っていたとされるが、光秀は妻として迎え入れ、生涯側室は持たなかったとされる。

○ 光秀は、美濃の中洞に落ち延び荒深小五郎と改名した、『明智行状記』を著した明智滝朗氏、千葉県市原市にある「明智光秀側室墓」など、明智光秀を自分の家系に取り込もうとするなどの意識がある家があった。17)、18)

●明智光秀木像（御霊神社蔵）

京都市指定文化財　明智光秀木像　慈眼寺蔵

各地の明智光秀に関係した会・祭り

「明智光秀公顕彰会」　大津市坂本
「明智神社奉賛会」　福井市東大味町
「明智光秀公ゆかりの地連絡協議会」　全国７市町
「坂本城を考える会」　大津市下阪本
「光秀祭り」　岐阜県恵那郡明智町

参考文献

1)　「信長公記」
2)　「豊内記」
3)　「川角太閤記」
4)　「寺社改一礼・里老茶話」　威光寺資料
5)　「天寧寺文書」
6)　「白毫寺文書」
7)　「明智日向守光秀祠堂記」
8)　「福知山市史」
9)　「明智光秀の妻煕子」　明智光秀公顕彰会　中島道子
10)「兼見卿記」
11)「新修大津市史」　藤井譲治
12)「老人雑話」　江村専斎
13)「明智光秀のすべて」　二木謙一
14)「フロイス・日本史」　ルイスフロイス
15)「小畠文書」
16)「細川家記」
17)「明智光秀」　大和田哲夫　PHP 文書
18)「歴史群像シリーズ・俊英明智光秀」　学研